

研究課題名	環状鉄芽球および血小板増加症を伴う骨髄異形成/骨髄増殖性腫瘍の後方視的解析
研究の意義・目的	<p>血液中の細胞成分は、酸素の運搬に関わる赤血球、免疫反応や異物から体を守る働きを持つ白血球および止血に関わる血小板の3種類があります。これらの血液細胞は骨の中にある骨髄で造られております。血液細胞の産生は、ある一定の範囲内に保たれるように生理的な調整を受けています。しかし、この調整がうまく働かなくなり、血小板が多く作られ、貧血を起こすようになる病気として、「環状鉄芽球および血小板増加症を伴う骨髄異形成/骨髄増殖性腫瘍(MDS/MPN-RS-T)」があります。以前は、この病気は「著明な血小板増加を伴い環状鉄芽球を有する不応性貧血(RARS-T)」と呼ばれていました。</p> <p>最近になり、特定の遺伝子の異常が、この病気の発症や、病気の進行に関わっていることが明らかになっています。しかし、稀な病気であることから、海外では約100例のまとめた報告があるものの、日本でのこの病気についてはまとまった報告がありません。そこで本研究では、「環状鉄芽球および血小板増加症を伴う骨髄異形成/骨髄増殖性腫瘍」と診断された方を対象に、遺伝子異常の有無や臨床経過を調査して、本邦での実態を明らかにすることを目的としています。研究の成果は、この病気の病態を明らかにするとともに、将来、治療や診断に役立つと考えています。</p>
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可後～2025年3月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	西暦2000年1月1日から西暦2020年12月31日の間に当院血液内科・造血細胞移植科でMDS/MPN-RS-TまたはRARS-Tと診断された方
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>診断名、診断日、年齢、性別、身体所見、検査結果(血液検査(赤血球数、白血球数、血小板数、血清LD値、フェリチン値、エリスロポエチン値)、骨髄所見(骨髄細胞数、生検所見、染色体結果)、治療の有無・経過、血栓症・出血・形質転換のイベント発症の有無、転帰</p>
試料・情報の他機関への提供	特定の個人を識別できない形で、共同研究機関である順天堂大学医学部附属順天堂医院 血液内科研究室に頂いた試料・情報を提供します。
この研究を行っている共同研究機関	<p>研究責任者：順天堂大学医学部内科学血液学講座 枝廣陽子</p> <p>研究参加施設：日本血液学会研修認定施設のうち、本研究への参加を希望する施設</p>
試料・情報を管理する責任者	研究責任者：順天堂大学医学部内科学血液学講座 枝廣陽子
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 臨床検査・医療情報医学 研究責任者 中前 美佳 電話番号：(06) 6645-3881